

科目名	授業時数	教科書名	副教材名
高校3年 特別進学 化学研究	3	新編化学基礎 化学 (東京書籍)	新編アクセス総合化学(浜島書店) ケミ探+化学基礎(啓林館) サイエンスビュー化学総合資料(実教出版)

1. 授業のねらい

- ① 化学計算の解法の学びを通して、各問題に共通する構造を捉えられるようにする。
- ② 化学に関する基本的知識の総整理を行う。
以上により、大学入試に対応する総合的な力を養う。

2. 授業のすすめ方

- ① 問題集ノートを作り(ルーズリーフ可)、計画に沿って家庭学習で問題演習を行って授業に臨む。
- ② 授業では、各自の問題演習を前提として基本事項や解法について質問をするので、十分な回答ができるように準備をしておくこと。
- ③ 疑問点やポイントについて授業で解説・演習を行うので、各自問題集ノートにメモ等を取る。
- ④ 各自が家庭学習で授業の復習を行う。

3. 学習上の留意点

- ① 常に入試を視野に入れ多くの問題にチャレンジする中で、考え方と計算力を身につける工夫をする。
- ② 各家庭学習の量によって自信を持って解答できる問題数に違いが出て、それが得点の差となる。
限られた時間の中で、自分で勉強計画を立てて家庭学習を進める必要がある。
- ③ 自学自習により演習を進めることになるので、授業だけでなく、適宜質問などにより、自分の弱点の克服に勉める。

4. 副教材・参考文献

- ① 問題を解いていて、理解できていない部分は自分の弱点である可能性が高い。教科書・参考書の該当箇所を参照し、再度確認と演習を行うことによって、弱点を一つずつ克服しておくこと。
- ② 副教材の問題集とは別に、各自の目的別に扱う問題集・参考書として下記の書籍を勧める。
 - ・「化学基礎の必修整理ノート」 文英堂
 - ・「化学の必修整理ノート」 文英堂
 - ・「化学重要問題集 化学基礎・化学」 数研出版

5. 評価方法

以下のように、定期考査・授業や課題への取り組み・提出物・演習テストなどにより、総合的に評価する。

- ① 定期考査は、各回100点満点の問題で、1学期中間・1学期期末・2学期期末の3回実施し、その得点を評価する。
- ② 平常点は、出席状況、授業での質問に対する回答等を総合して評価する。

年間の計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一 学 期	四月	■一学期：基礎事項の確認と弱点の把握 【知識・無機分野】 第1章 物質の構成 第5章 無機物質の性質と利用 【理論分野】 第2章 物質の変化 第3章 物質の状態と平衡 第4章 物質の変化と平衡 【有機分野】 第6章 有機化合物の性質と利用 (脂肪族化合物まで)	家庭学習で行った基本的な問題の解法が身についているかどうかを各授業内で、質疑応答形式で確認する。 定期考査① 定期考査②	□知識の確認・総整理 化学基礎や無機化学の分野の基本的な知識を確認する。習得が不十分な分野について補強を行う。 □物質量を中心とした問題演習 化学変化・物理変化にとらわれることなく、変化前後の不変の量を把握し、それらを等式で結び、化学計算式を確実に立てられるようになる。 □有機化学の基本の習得 有機化学の問題を解く基本的な事項を学び、問題演習を通じて定着させる。
	五月			
	六月			
	七月			
二 学 期	八月	■夏休み期間：弱点分野の克服 ■二学期：問題演習による実力錬成 【有機分野】 第6章 有機化合物の性質と利用 (芳香族化合物・有機総合演習) 第7章 高分子化合物の性質と利用 【一般入試の類題による総合演習】 (私立大学・国立大学等)	家庭学習で行った基本的な問題の解法が身についているかどうかを各授業内で、質疑応答形式で確認する。 定期考査③	□夏期講習、問題演習 一学期に把握した弱点分野を克服する学習計画の立案と実行を行う。 □過去問題演習 進学後の化学学習へ向けて、問題演習により、高校化学の総まとめをする。
	九月			
	十月			
	十一月			
	十二月			
三 学 期	一月 二月 三月	■特別編成授業 (未定)		自然科学への興味関心を深める。